

熱帯の森林害虫（25）

甲虫目 2

ツツシンクイムシ科 Lymexylonidae

成虫は細長く円筒形で軟体。触角は比較的短く鋸歯状。前・中脚の基節は大形で突出して円錐状。上翅は短い。跗節は5節からなる。幼虫は木材穿孔性、前胸は大形になり、尾部に突起をそなえている。

Atractocerus emarginatus は東洋区の西部に広く分布する。*Artocarpus nobilis*, *Buchanania latifolia*, *Dipterocarpus turbinatus*, *D. zeylanicus*, *Shorea robusta* の木部に穿孔する。成虫は帶褐黄色。体長は非常に変化がある。複眼は左右相接する。翅は方形で短小、腹部は長形で背板が露出する。幼虫は細長い円筒形、成熟すると体長45mmに達する。脚は良く発達する。腹部第9節は円筒形で先端は斜に裁断される。幼虫は辺材から内部に20cmぐらいの曲がった孔道を作る。穿孔の時に生じた木屑は排出される。孔道壁には餌になる黒色のカビが生える。インドでは年1世代、成虫は3~5月に出現する。

クシヒゲムシ科 Rhipiceridae

成虫は細長い円筒形。触角は雄では櫛歯状でときに鰓状。前・中脚の基節は円錐、円筒状。跗節は5節からなる。上翅は比較的大きく、腹部を完全に覆う。幼虫は長い円筒状で後端は切断される。脚は短い。朽木に生息する。

タマムシ科 Buprestidae (flatheaded borers, metallic wood borers, jewel beetles)

小形ないし大形、堅く、扁平。金属的色彩のある美麗種が多い。頭部は複眼まで前胸に覆われている。触角は短く、11節で鋸歯状。前胸は大きく不可動。前脚の基節は球状、後脚の基節は幅広く腿節の一部を覆う。跗節は5節。幼虫は目と脚がなく、明瞭な環節からなり、やや扁平な細長い円筒形。頭部は小さく、前胸は非常に大きく扁平。多くは樹幹や枝あるいは根に穿孔し、一部の小型種は潜葉性あるいは虫えいを形成する。

Acmaeodera aurifera Laporte et Gory はインドとパキスタンに分布する。*Acacia catechu* と *A. indica* の穿孔虫で、成虫は7~8月に出現し、枝と根の樹皮に産卵する。幼虫は直ちに樹皮下に穿孔し、曲がりくねった孔道を掘り、細粉を密につめる。蛹化は孔道の先端で行う。1世代は1年か時に2年である。*A. stictipennis* Laporte et Gory はインドとパキスタンに広く分布し、青黒色で上翅に赤色または黄色の斑紋をもった小さなタマムシである。*Shorea robusta* に普通で *Acacia catechu*, *Adina cordifolia*, *Cassia fistula*, *C. siamea* からも記録されている。成虫は4月から8月に出現し、枯死木、伐倒木、衰弱木の樹皮に産卵する。幼虫は不規則に曲がりくねった孔道を掘り、細粉を詰め

NOBUCHI, Akira : Insect Enemies in the Tropical Forests (25) Coleoptera 2
林業科学技術振興所筑波支所

る。蛹化は孔道の先端です。*Capnodis miliaris* Klug はインドとパキスタンに分布する。成虫は体長 3~4 cm, 黒色で白色粉末をつける。広葉樹と針葉樹の多くの樹木の樹皮と木部につく。ボプラの重要な害虫である。本種の加害に対して *Populus alba*, *P. euphratica*, *P. nigra* は感受性で, *P. deltoides* は抵抗性である。*Abies pindrow*, *Pinus gerardiana*, *Platanus orientalis* にも害をあたえる。生立木への食入は通常乾燥状態にある衰弱木で、この虫による直接的な枯損は少ない。

Chrysobothris gardneri Théry はインドで *Acacia indica* の根の穿孔虫で、成虫は 5 月から 6 月に出現する。*Chrysochroa bicolor* Fabricius はインド、東パキスタン、マラヤなどの東洋区に分布する。幼虫は各種生立木の樹幹に穿孔する。大形のタマムシで、幼虫は成熟すると約 15 cm になる。木部に大きな孔道を掘り、幅 8 cm になることもある。円穴からフラスと樹液を排泄する。成虫になるのに数年かかる。ジャワではカカオの害虫で、パキスタンでは *Shorea robusta* の重要な害虫である。他に *Ceiba pentandra*, *Xylia xylocarpa* などが寄生樹種として記録されている。*Coraebus dorsalis* Kerremans は北インドとパキスタンに分布し、成虫は葉を後食し、幼虫は若い *Quercus lineata* の樹幹に穿孔する。被害部は虫えい状に膨隆し、激しい被害を受けると枯死する。ニュージーランドで、この種類をブラックベリーの防除に導入したが、成虫が果樹の葉を食害するため中止されたことがある。

Psiloptera cupreosplendens Saunders はインドとスリランカにいる金属光沢のある緑銅色のタマムシで、体長は約 25 mm, 各種広葉樹の新梢の樹皮を食害する。*Acacia indica*, *Shorea robusta*, *Zizyphus mauritiana* に被害をあたえる。*P. fastuosa* Fabricius はインド、パキスタンから東方の中国まで分布する。成虫は青緑色で金属光沢があり、体長は 20~25 mm。*Acacia* 属につく。成虫は広葉樹の食葉虫であるが、新梢の樹皮を条状あるいはギザギザにかじる。インドで *A. indica*, *A. catechu*, *A. cyanophylla* に激しい被害が発生したことがある。*Sphenoptera aterrima* Kerremans はインドとパキスタンに分布する。成虫は黒色で体長約 10 mm。幼虫は衰弱した針葉樹の穿孔虫で、加害樹は *Abies pindrow*, *Cedrus deodara*, *Pinus griffithii* が知られている。卵は樹皮の割れ目に産みつけられる。幼虫は不規則な孔道を掘り、堅く木粉をつめる。

Trachys bali Guérin-Méneville は西パキスタンで *Albizia lebbeck* の食葉虫として記録されている。*T. bicolor* Kerremans はインドに分布し、成虫は暗青色のタマムシで、幼虫・成虫共に *Butea monosperma* の葉を食害する。成虫は葉上面の主として主脈と中脈の接合部に 1 個か小卵塊に産卵する。幼虫は葉の組織内に潜葉する。蛹化は葉内の幼虫孔です。南インドでは年 4~5 世代で、卵期は約 19 日、幼虫期は約 1 か月、蛹期は約 9 日である。

コメツキムシ科 Elateridae (check beetles, skipjacks,



図 1 *Psiloptera fastuosa*
成虫

◎熱帯林業講座④

wire worms)

成虫は微小ないし中庸大。体は堅く、長形でやや扁平。体色は一般に黒色、灰色、褐色であるが、鮮明な金属光沢のある種類もいる。触角は簡単か鋸歯状か櫛歯状で11節からなる。前胸腹板は後縁中央に1突起があり中胸腹板の凹に受入れられている。幼虫はハリガネムシで、普通細長く円筒形、平滑で光沢ある黄色ないし赤褐色。腹部第9節は微歯列の縁をもった背板をもち、キチン化した1本または1対の突起か棘をそなえる。成虫は樹木の芽を食害するものが少なくない。幼虫は土中や朽木の中にいて、地表上下の種子や植物を食害し、多くは根切虫や穿孔虫、毛虫などを捕食する。

Alaus sordidus はインドに生息し、成虫は黒色で密な地衣状の黄色の斑点をもつてゐる。5~8月に出現し、年1世代である。卵は辺材穿孔虫の入った排泄孔に産みつけられる。幼虫は樹皮下で穿孔虫の幼虫を捕食し、材中深くのカミキリなどの蛹室に穿入し、蛹や弱幼虫を食い殺し、その中で蛹化する。

シバンムシ科 Anobiidae (deathwatch beetles, drougstore beetles)

成虫は微小ないし小形で短く円筒形。頭部は下口式で前胸背板の下に隠れる。触角は鋸歯状、櫛歯状ないし棍棒状で末端の3節が大形となり自由。跗節は5節。幼虫はジムシ形で腹側にC字形に曲る。

タバコシバンムシ *Lasioderma serricorne* (Fabricius) は世界各地に分布し、各地のタバコや葉巻の重要害虫である。収穫されたばかりのタバコの葉に産卵する。幼虫期間は5~6か月である。これは阿片、タマリック(ウコン粉末)、植物標本、アスターイチゲなどの貯蔵種子にもつく。